

# 自己評価票

## 地域密着型サービス自己評価項目

### (評価項目の構成)

#### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

#### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

#### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

#### V. サービスの成果に関する項目

#### 【記入方法】

- 複数のユニットを持つ認知症対応型共同生活介護事業所の場合、各ユニットごとに、管理者が介護職員と協議の上記入してください。
- 次の項目は、小規模多機能居宅介護事業所のみ記入してください。  
 項目番号23 ○初期に築く本人との信頼関係  
 項目番号24 ○初期に築く家族との信頼関係  
 項目番号25 ○初期対応の見極めと支援  
 項目番号26 ○馴染みながらのサービス利用  
 項目番号39 ○事業所の多機能性を活かした支援
- 次の項目は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入してください。  
 項目番号53 ○身だしなみやおしゃれの支援  
 項目番号59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  
 項目番号60 ○お金の所持や使うことの支援  
 項目番号61 ○日常的な外出支援  
 項目番号62 ○普段行けない場所への外出支援  
 項目番号63 ○電話や手紙の支援  
 項目番号64 ○家族や馴染みの人の訪問

#### 【用語について】

- 管理者＝指定事業者としての届出上の管理者とする。「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
- 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。

事業所名 みずいろの郷

(ユニット名) \_\_\_\_\_

記入者(管理者) 氏名 田中 裕子

評価完了日 21年 2月 13日

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業者独自の理念を作成、掲示し利用者がその人らしく暮らし続けることができるように支援している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を事務所内に掲示し、職員間での日々の話し合いやミーティングの機会を設けて、理念の共有、実践に向けて日々努力している。	
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議をほぼ定期的で開催し、利用者の家族や地域の方々との情報交換の場を設けている。また、理解してもらえようように分かりやすく説明している。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や買い物へ出かけた際には、こちらから積極的に挨拶をするようにしている。また、近隣の方とは、家庭菜園の野菜やホーム内でのイベントの料理を届けたりしている。	近隣の方をお茶に誘ったりしているが、訪問される事は少ない。気軽に立ち寄っていただけるように今後も努力していきたい。
5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域での行事（お祭り、芋煮会）には積極的に参加するように努めている。	地域と密に連絡を取りながら、数多くの行事に参加できるようにしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議を通じて、地区役員や民生委員、地域包括支援センター職員から地域の高齢者について情報を聞き、事業所として何か出来る事があれば協力する事を伝えつつ話し合っている。</p>	
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>実施する意義を理解した上で、一人一人自己評価を行い、それを持ち寄って自己評価を作成した。前回の指摘事項については、申し送りやミーティングなどを利用し職員間で話し合い改善するように努力している。</p>	
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>利用状況やホーム内の行事や利用者の様子などを報告している。また、質疑応答の場を設けて参加者からの意見や質問などを出していただき、今後のサービス向上に活かしている。</p>	<p>参加者が限られているので、参加を呼びかけ情報交換をしていきたい。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>利用者やホームについて相談したり、常時連絡を取り合い情報交換をしている。</p>	
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者、職員が地域権利擁護事業や成年後見人制度について学ぶ機会を積極的に設けていき、必要な方には活用できるようにしていきたい。</p>	
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修会に参加したり、職員間で注意し、防止に努めている。</p>	<p>今後も研修会等に参加し学ぶ機会を設けていきたい。また、見過ごされることがないように注意していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約、解約時には、職員より十分な説明を行うようにしている。また、何かあった際には随時相談して欲しい事を伝えている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者からの意見等は職員へ話しやすい雰囲気作りに努めている。また、利用者が管理者や職員へ話しにくい場合には、家族から聞いてもらうなどしている。利用者からの意見等は、職員間で話し合うなどし、解決するよう努めている。</p>	<p>利用者、家族と職員がコミュニケーションをとりつつ、話しやすい環境、話しやすい雰囲気作りに努めていきたい。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>面会時や電話などで利用者の日常の様子や健康状態を報告している。また、各個人別の通信紙や毎月の購入品の領収書なども毎月請求書と一緒に郵送している。</p>	<p>急な受診の際には、家族へ随時報告している。また、家族が利用者の日々の生活状況が把握できるように通信紙を今後も継続していきたい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>来所時や電話、運営推進会議等を利用して管理者や職員へ伝えていただくようにしている。また、話しにくい場合などは面会表に記入して頂くなど工夫している。この意見等は職員で話し合う場を設けて改善に向けて努力している。</p>	<p>意見や不満、苦情等を話しやすい環境作りをしていきたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティングや日々の場で職員からの意見や提案などを聞くようにしている。</p>	<p>職員からの意見や提案などは、管理者がとりまとめて運営者に報告や相談をしている。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>必要に応じた職員数にしたり、急な対応にも職員を確保できるように話し合い、協力をお願いしている。</p>	<p>職員の希望公休を取り入れて、急な勤務変更が無いようにしているが、急な対応の際には残業や休日出勤などの協力をお願いしている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者、計画作成者の変更はなく、異動や離職も必要最小限に抑えている。また、新任職員の際には、研修期間を設け馴染みの職員がつくようにしている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19 ○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数に応じて、研修を受ける機会や資格習得に取り組んでいる。		社会福祉協議会やグループホーム連絡協議会などの研修を中心に参加しているが、職員からの希望があった研修には積極的に参加させていきたい。
20 ○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会等の勉強会や研修を利用し情報交換を行っている。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	毎月の勤務表作成時には、希望公休は確実に休めるようにしている。ホーム内で職員が休める休憩場所はないが、休憩時間は確保出来るようになった。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員が各自向上心を持って働けるように、職員に応じた資格取得をさせていきたい。		経験3年以上の職員に対しては、介護福祉士の勉強会へ参加する機会を設けている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている(小規模多機能居宅介護)		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が得意とする事や職員と一緒にいることで活躍する場を作るようにしている。また、学んだり支えあう関係を築くよう努力している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会や外出や外泊など利用者が家族と一緒に過ごす時間を作るよう努めている。また、行事への協力などもお願いしている。		面会期日を把握し、期間が開いた場合には家族への面会をお願いし、情報交換を密に実施している。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでの関係を理解し、家族の負担にならない程度に面会や外出、外泊などをお願いしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人には電話や面会などをお願いしている。また、馴染みのお店や馴染みの場所へ行く機会を設けるよ努力している。		
31	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日常生活の中で支え合う関係を作るように努めている。また、気の合う利用者同士で過ごせるような場を設けたりしている。		孤立してしまった際には、職員のお手伝いなどをお願いし、職員が関わるようにしている。
32	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居時にいつでも相談事などに対応できる事を伝えている。また、退居されてからもホーム内の行事に参加するよう呼びかけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	申し込み時や入居時に本人や家族の希望を聞くなどしている。また、日常の会話からも本人の思いや暮らし方の希望を把握するよう努めている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	申し込みをされた時点で、本人の生活の様子や他サービス利用の際の様子など本人、家族、他サービス関係者、ケアマネージャーから情報を得ている。また、その情報を職員間で共有化し、ケアに活かすよう努力している。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するよう努めている	各利用者の生活リズムや有する力を把握するよう努めている。また、変化があった場合には、記録に記入し職員間で共有するようにしている。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者がより良く暮らす為に本人や家族から情報や意見を取り入れたり、職員全員にも意見やアイデアを聞くなどして介護計画を作成している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直し時期には本人、家族や職員と話し合い見直しを行っている。見直し以前に本人の状況に変化が生じた場合にも同じように話し合い作成している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録し、一日の様子や変化、気づき、利用者からの要望など記入している。勤務交替時には、申し継ぎを行い、情報を共有できるようにしている。また、何かあれば利用者のケアについて話し合うなどしている。		個別の記録は、記入者以外の職員や家族など誰が見ても理解できるような記入に心がけている。また、特変があった際には業務日誌にも記入し、全職員が情報を共有し以後に活かすようにしている。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている (小規模多機能居宅介護)			
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地区役員や民生委員の方には運営推進会議の委員をお願いしている。ボランティア (アコーディオン演奏、近隣の小学生) や中学校の総合学習の受け入れなどもしている。		小学生のボランティアも引き続き受け入れ、幅広い地域資源を活用していきたい。
41	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて、入居前のケアマネジャーや地域包括支援センター職員との情報交換を行っているが、自己負担が発生するような他のサービス利用は行っていない。		必要が発生した場合は、家族と相談しながら積極的に利用していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議の委員として会議への出席時や電話連絡をするなどして、利用者の状態や意向などを報告し、今後の対応について相談をしたりしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45			
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		<p>利用者・家族・かかりつけ医と相談し、その方針を全職員で共有していきたい。</p>
	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p>		

グループホーム みずいろの郷 自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		<p>重度化した場合における対応に関する方針を作成し明記している。利用者、家族、主治医と連携を取りながら、チームとしての支援が出来るようにしていった。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他施設へ移動する際、情報を提供し移動先の職員と話し合いながらすすめている。また、自宅へ戻る際にも家族や関係者と情報を提供し、話し合いや相談するなどしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の気持ちを害するような対応や言葉のかけ方や会話等、職員間で注意している。排泄や入浴の際には、さりげなく声をかけるようにし、居室へ入る際にも利用者の許可を得て入室している。		個人情報の持出し禁止や個人名の記載禁止を引き続き実施。入居者のケース記録は事務所にて保管し外部流出を今後も引き続き無いようにしていきたい。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	わかりやすい質問や説明をしたり、利用者に応じてゆっくりと希望や意向を聞くようにしている。		年々介護度が上がるため、入居者にあったケアをしていきたい。
52 ○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしている。食事、休息、余暇など本人の希望にそえるように支援している。		買い物や散歩等の希望があった際には、その都度対応するように心がけている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援(53は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)			
○身だしなみやおしゃれの支援	利用者が希望される理容店がある場合は、家族へ		

グループホーム みずいろの郷 自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている（認知症対応型共同生活介護）	利用者が希望される理容店がある場合は、家族へ協力をお願いし、行けるように支援している。自分で決める事が出来ない利用者には、家族に相談し、了解を得てから職員が散髪を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		<p>野菜の収穫期には利用者にも参加して頂き、収穫の喜びと味わう喜びの両観点が支援できるようにしていきたい。</p>
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		<p>家族や職員から、ゆずや菖蒲を頂き季節感を堪能できるようにしている。</p>
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している（認知症対応型共同生活介護）</p>		
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している（認知症対応型共同生活介護）</p>		
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している（認知症対応型共同生活介護）</p>		
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている（認知症対応型共同生活介護）</p>		
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している（認知症対応型共同生活介護）</p>		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>			
	○身体拘束をしないケアの実践		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が具体的な行為を理解し、身体拘束は行っていない。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		<p>就寝中にも定期的に見回り、時間まで安眠出来るようにしていきたい。</p>
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		<p>無断外出してしまう利用者に気付くように玄関にセンサーの設置、誤訳を防ぐ為の各利用者毎の薬箱の利用などを行っている。</p>
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		<p>定期的に昼夜を問わない訓練の実施、近隣の方々から協力を得られるような働く掛けを行ってきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居申し込み時に家族に説明している。入居後は、面会時に本人の生活の様子や状態を報告し、起こり得るリスクについて説明している。また、緊急時の対応の仕方を相談し、緊急連絡先の確認をしている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体温、血圧測定を毎日行い、変化や異変があった際には記録に記入し、職員間で共有するようにしている。また、心配な点があったり、いつもと状態が違う場合には家族へ相談し、必要があれば受診をしている。		各利用者毎に食事、水分摂取量、排泄の状態、入浴時には全身状態の把握に努めている。
74	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者毎に薬箱があり、職員が交替で配薬することで、薬の効能、副作用などを理解できるようにしている。また、いつでも把握できるように利用者毎に服用している薬をファイルしている。変更時には、個別の記録用紙に記入し、日誌にも記入し申し送るようにしている。		
75	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	利用者毎に毎日、排便の確認を行っている。食事は野菜中心の献立を心がけ、水分も多めに摂取するよう声かけをしている。散歩や清掃などで身体を動かすような時間を作ったり、起床時に冷たい牛乳を出すなどなるべく薬に頼らないように工夫している。		
76	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	利用者の状態に応じて、声かけしうがいや義歯洗浄を行っている。また、歯磨きが出来ない場合などには、食後にお茶を飲むように勧めている。		毎食後に全員が歯磨きを行うことは難しいが、起床時、就寝前には歯磨きを行うように声かけしている。
	○栄養摂取や水分確保の支援	各利用者毎に摂取出来る量を考慮しつつ、不足が		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染対策マニュアルを全職員に配布し、発生した際に備えている。毎年、インフルエンザ予防接種は利用者、家族へ協力をお願いし、利用者と職員が接種している。		
79	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は買い置きせず、ほぼ毎日買い物へ行き新鮮な食材を購入し、調理している。冷蔵庫、台所は常に清潔を心がけ、まな板や包丁は毎食消毒し、フキンや台フキンは塩素系漂白剤を使用。また、日光消毒も行うようにしている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	周辺にはプランターなどに季節の花を植えたりしている。玄関前にはベンチを設置したり、手作りの看板を取り付けるなどしている。また、安全に出入りできるように、階段の脇にスロープや手すりなども設置している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダイニングには、採光窓があり自然な光が入り込むようになっている。窓からの日差しが眩しい時には、カーテンや障子で対応している。また、共有の空間にカレンダーや花を飾ったり、行事の物を飾ったりしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士で、ダイニングや和室で過ごしたりしている。一人になりたい時には、ウッドデッキや座るスペースのある洗面所や玄関などを居場所として利用してもらっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	本人が使用していた家具や布団、茶碗や湯飲み、 箸などを持参するように家族へお願いしている。 家族が新しい物を持参された場合には、本人の衣 服が見えるように吊したり、壁には見慣れた絵や 家族の写真などを飾るようにしている。		
84	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	起床時や清掃時には、窓を開け換気を行って いる。換気が出来ない場合には、換気扇を使用す るなどしている。また、フローアや居室はエア コンを使用し、温度調節を行っている。居室の換 気が必要の際は、本人の了解を得て窓を開けて 換気を行うなどしている。		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	建物内部は、バリアフリーで段差がない建物と なっている。廊下やトイレ、浴室には手すりが設 置してある。フローアでは、家具の設置場所を工 夫し、車椅子や手押し車で安全に移動しやすいよ うにしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	目印やのれんを下げたり、各利用者が座る椅子や 居室の入り口には、本人がわかる目印で工夫して いる。常時、利用者の状態に合わせて見直しをし ながら支援していきたい。		目印を変更したりして注意力をそそるようにして いる。
87	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	玄関前にはベンチの設置し、日光浴をしたりプラ ンターの手入れをしたりしている。敷地内には、 畑もあり季節の野菜を植えたり収穫したりして いる。また、ウッドデッキにはちまきや干し柿を吊 したり、収穫した野菜の保管場所になっている。		敷地内を安全かつ自由に過ごせる場所をもっと増 やしていきたい。

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない ⑤その他 ( )
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない ⑤その他 ( )
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ( )
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ( )
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ( )
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ( )
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ( )
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない ⑤その他 ( )
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない ⑤その他 ( )

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない ⑤その他 ( )
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ( )
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ( )
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない ⑤その他 ( )

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・入浴順番は、利用者の希望を取り入れながらほぼ全員毎日入浴し清潔を維持できるように支援している。また温泉の湯も引き続き楽しんで頂いている。
- ・家庭菜園で出来た野菜や運営者が作っている野菜を中心とした食事を提供している。米も運営者から玄米で提供してもらい、ホームで精米している。
- ・月1回は利用者の希望を取り入れて、外へ出掛けるようにしている。また、年2回は利用者・家族・職員と一緒に外出する機会を設けている。
- ・利用者から外出（散歩・買い物など）の希望があった際には、出来る限り職員と外出するよう心掛けている。
- ・職員は各利用者の出来ること出来ないことをよく見極め、利用者と出来るだけ共同で行う事を心掛けている。  
また、日常生活で利用者が活躍する場を作り、利用者職員がお互いに助け合う関係を築くようにしている。
- ・2ヶ月に1回はホーム内で利用者・家族・職員・ボランティア及び地域の方々と一緒に食事会を開催し、交流できる場を設けている。